


【理事会報告】

1998年度 日本村落研究学会 第5回 理事会 会議録

日時 1998年10月24日(土)

場所 国立婦人教育会館

出席者 相川良彦、安孫子 麟、荒樋 豊、池上甲一、大内雅利、大川健嗣、
大野 晃、嘉田由紀子、ガボリオ・マリ、北原 淳、小林一穂、
黒柳晴夫、酒井恵真、杉岡直人、高橋明善、鳥越皓之、 理恵子、
徳野貞雄、中道仁美、細谷 昂、松岡昌則、渡辺 正 (22名)
欠席者 河村能夫、木下謙治、熊谷苑子 (3名)

I. 報告事項

1. 事務局報告

(1) 会員動向

本年度の新入会員22名がまとめて報告があった。また退会会員6名が報告された。逝去された会員が2名おられたことが報告された。

さらに、会則第6条により退会となる会員28名が報告され、承認された。

(1) 1998年度の名簿が8月に発刊されたことが報告された。

1. 編集委員会報告

(1) 年報編集委員会報告

小林年報編集長から、年報第34号が予定通り発刊されたことが報告された。年報の販売促進の点から、購入手続きの状況を把握する必要があるのではないかとの意見が出され、出版社に登録されているリストを調べることになった。また、通信でも年報の発刊を知らせ、購入促進を図ることが必要だとの意見が出された。

(1) ジャーナル編集委員会報告

大内ジャーナル編集長から、9月にジャーナル第9号が発刊されたことが報告された。

1. 学会賞選考委員会報告

安孫子選考委員会委員長より、98年度の学会賞の選考経過と結果が報告された。今年度は4編を対象に選考した結果、秋津元輝会員の「農業生活とネットワークつきあいの視点からー」(1998年1月 御茶の水書房)が、学会賞の授賞対象となったことが報告され、理事会としても提案を承認した。また、選考委員会からの問題提起として、学会賞選考運用規定第3条には「著書、論文、調査報告研究書」とあるが、選考対象を著書と雑誌論文を同列にして対象するのに無理はないか、再検討してみる必要があるとの意見が紹介され、今後理事会で検討することにした。

1. アジア農村社会学会(ARSA)について

アジア農村社会学会の開催に関するその後の情報が紹介された。北原理事から既に日本から3名の報告者が決まっているが、他に報告希望があれば、11月1日までに報告のアイデアを提出し、12月15日までに報告論文を提出することが必要であると紹介があった。

1. 審議事項

1. 世界農村社会学会（IRSA）世界会議の招致に関する総会提案について

細谷会長から、先の第4回理事会において承認された、世界農村社会学会世界会議の招致に関する取り組みについて、今年度の総会に提出する会長案が示された。提案内容は、理事会が承認した国際交流委員会の提案を基本的としているが、会長としては特に、招致することになれば村研の総力を挙げた協力体制が必要であることを念頭において審議をお願いしたいと説明があった。

会長の提案は了承され、総会に提案することになった。

2. 1999年度事業計画・予算（案）について

事務局から、1999年度の学会の活動は例年と同じであるが、それらの事業を実施する予算については、収支構造にかなりのアンバランスが見られる現状を踏まえるならば、かなりの緊縮予算を組まざるを得ない。特に、理事会への出張旅費補助、通信やジャーナルの郵送代等の大幅な支出を抑制した予算を組む必要がある。一方、各種委員会からは活動経費確保の要望が強く出されており、必要経費の予算化が必要である。また、来年度以降については、会費値上げを含む学会財政の再検討が必要であると提案があり、これらを踏まえて99年度の予算案は承認された。

なお、理事会などの旅費補助については、99年度は各種委員会の場合も含めて、年に1回のみ補助を行い、補助額は従来と同じとすることが確認された。

3. 2000年度大会テーマセッションについて

北原研究委員会委員長から、2000年度のテーマセッションについては「農政の再検討（仮）を基本テーマとし、大川会員（山形大学）にコーディネーターをお願いするという提案があった。これについて「歴史的な問題」も取り上げて欲しいという要望を含めて、理事会では承認された。

4. 次回大会日程について

細谷会長から次回大会開催地は、東洋大学にお願いすることが決まっているが、東洋大学からは大会日程については、本年度とほぼ同じ時期に開催を予定しているとの連絡が入ったことが紹介され、理事会もこれを了承した。

1999年度 第1回理事会 会議録

日 時 1998年10月25日（日）

場 所 国立婦人教育会館

出席者 相川良彦、安孫子 麟、荒樋 豊、池上甲一、大内雅利、大川健嗣、
大野 晃、嘉田由紀子、ガボリオ・マリ、北原 淳、小林一穂、
黒柳晴夫、酒井恵真、杉岡直人、高橋明善、鳥越皓之、^雲理恵子、
徳野貞雄、中道仁美、細谷 昂、松岡昌則、渡辺 正 （22名）
欠席者 河村能夫、木下謙治、熊谷苑子 （3名）

議 題

1. 世界農村社会学会（IRSA）世界会議の招致の検討組織について

日本における会議の招致の可能性について検討を行う組織をつくる。また検討委員は、次回の理事会で決めることが確認された。

2. 学会賞の選考対象について

98年度の選考委員会から提起されているように、学会賞の選考対象に関する運営規則を再検討する必要がある。次回の理事会で具体的な検討を行うことを確認した。

1. 学会費について

学会財政の現状を考慮して、2000年度以降の会費改定についての検討を行う必要があることが確認され、次回以降の理事会で検討することになった。

4. 第50回大会に向けて

村研の第50回大会を4年後（2002年）に迎えるが、それに向けた課題設定を考慮しておく必要があるのではないか。今後理事会で具体的な案を検討していくことになった。

1. 次回理事会日程

次回理事会は、12月19日（土）慶應義塾大学にて開催する。

1999年度 第2回理事会 議事録

日時 1998年12月19日(土)

会場 慶応義塾大学三田キャンパス 新研究棟B会議室

出席者 相川良彦、安孫子 麟、荒樋 豊、大内雅利、大川健嗣、ガボリオ・マリ、
北原 淳、酒井恵真、杉岡直人、高橋明善、中道仁美、細谷 昂、
松岡昌則、熊谷苑子、渡辺 正(15名)

欠席者 池上甲一、嘉田由紀子、木下謙治、大野 晃、鳥越皓之、鶴 理恵子、
徳野貞雄、小林一穂、黒柳晴夫、河村能夫、(10名)

時間：12月19日12時30分～4時まで

報告事項

1. 第46回学会大会事務局報告(荒樋理事)

学会大会の会計を終えた段階であり、一般会員98名、院生会員13名の参加をえて総額183万余の収入があり、支出の抑制を図った結果、168万円余の支出にとどまり、差し引き148,110円の余剰金が出たため、学会会計に組み込むことで了承。

2. 学会賞選考委員会報告(我孫子理事)

奨励賞の対象や条件の見直しに関して、現委員会の任期が終了する1999年秋の大会までに検討を進め、9月予定の理事会に報告・審議の上、次年度総会に提案する予定。例年推薦数が少ないため、委員会で苦慮しており会員に呼びかけし、理事会メンバーからも積極的な取り組みをお願いしたい。

3. 年報編集委員会報告(松岡理事)

テーマを「農村高齢化と地域福祉」としてテーマセッションの報告5本(各60枚)およびコーディネーターの総括解題。および叶堂報告を含める。関報告については相川会員との調整によりまとめる(80枚程度)。自由報告の募集は、農村高齢化に関するものを50枚を上限としてまとめることで、2月末までに題目の申し込み。4月末に完成原稿提出。研究動向については別途

4. 地区研究会報告

関東地区研究会(相川理事報告)では、学会大会テーマに合わせた研究会も年に一度くら

いは開催することになっている。それが特定テーマの場合、参加者確保の意味で、関係学会と共催する形態をとっており、本来なら今年度は農業政策などをテーマにするのが順当である。ただ、前年度のテーマ「農村高齢者福祉問題」はこれからの農政にとって大切なので、もう1回共催研究会をもってみては如何かという話が川嶋・農村生活学会長から出されたので、99年6～7月頃に複数学会共催による農村高齢者福祉問題の研究セミナーを開催することにしたい(座長に、農村生活総合研究センターの利谷信義・理事長を打診中)。マンネリにならないよう、以前の共催セミナーと少し趣を変えて、企画したい。

5. ジャーナル編集委員会報告(大内理事)

きわめて順調に編集が進んでおり、1999年3月に10号発行予定。1999年9月発行分について自由報告募集。

6. 社会学研連委員会報告(高橋副会長)

2000年の世界農村社会学会へのブラジル派遣について、旅費の枠を希望している。1999年夏くらいまでに派遣者の決定が必要である。

7. 村研年報の購読者の直接購入について(事務局)

農文協として300部くらいの会員による購入を希望。会員および会員の機関購入を呼びかける。

8. その他

新事務局体制について

1999年度の学会事務局の分掌は、理事会関係および研究通信作成・印刷担当は、北星学園大学杉岡研究室でおこなう。学会誌の発送・会費の振込先・連絡用封書・会計は札幌学院大学で取り扱う。会員入退会管理→酒井理事
会計→小内会員、会員データベース管理→内田会員。

議題

1. IRSA特別委員会の設置と検討課題について

委員は、会長の就任要請を受けて以下のメンバーが選出され、①村研とIRSAの組織的な関係の整理、②大会の引き受け機関・団体等の検討と打診、③予算関係の検討を中心としてまとめを次期大会までにおこない、理事会・総会に報告・決定するものとする。

とくに予算については、国際交流基金に申請する際の問題、基金を募る際の主体の問題があり、村研組織が直接開催主体になるのではなく、実行委員会を組織して開催する手順等の問題整理が必要。

問題となったのは、ARSAおよびIRSAの組織がどのような体制になっているのか、財政基盤や国際会議を開催する際の委員会の組織と運営の仕方について、十分理解していない理事が多く、一般会員がよく分からないために疑問をもっていることもやむを得ないということになる。会員の不安は、IRSA招致に際して、頭割りで特別徴収されるのはかなわない、興味もなく参加も予定しない会員にとっては、関係ないことと思われるのではないかという指摘もあった。

この問題については、事務局に岩本会員から原稿用紙5枚にわたる長文の意見が寄せられ、事務局と会長との打ち合わせの結果、理事会に配付した。議論の中では、岩本会員の

誤解に応えるかたちで会長が説明をして、岩本会員の意見を通信に掲載するのはどうかという意見もあった。岩本会員からの意見も村研とIRSAの関係および会員に対する負担の押しつけに関する疑問などが読みとられる。IRSAに関する理事会の取り組みについて、さらに会員に詳しく説明する必要があるのではないか。最終的に岩本会員の指摘をふまえて特別委員会で検討頂くという線で終結した。この点について、会員にARSAおよびIRSAの組織について情報提供を図ると同時に委員会のスタート時に理解を共有することが必要であるため、鳥越・河村委員に原稿を依頼する。第1回目の委員会は、1月23日1時から慶応義塾大学三田キャンパス、図書館横の2階小会議室で。1回目は会長による検討依頼の説明および委員長を選出を行い、検討課題について実質的な論議を行う。この委員会の運営については、理事会の旅費規程に準じて、関東圏は支給せず、本州は1万円、九州・北海道は1万5千円とする。支出は国際交流のための基金からおこなうことで了承。

(IRSA特別委員会委員)

鳥越皓之、長谷川昭彦、相川良彦、池上甲一、磯辺俊彦、嘉田由紀子、河村能夫、北原淳、熊谷苑子、黒柳晴夫、杉岡直人、高橋明善、大川健嗣、徳野貞雄

2. 村研第50回大会(2002年)について

IRSA大会招致の関係も含めて、第50回大会のありかたについて検討する必要があることで一致。シンポジウム・記念講演等の問題を含めて研究委員会で企画案を検討することになる。

開催地の問題として第1回、第30回大会の時は仙台であったことや講演者の問題として大内力・渡辺兵力氏などの名前が出されたが、今後更に検討することとなった。

3. その他